

1. 概要

(1) 商船三井が運航するばら積み貨物船「WAKASHIO」(わかしお)が、ブラジルで鉱石を積むため中国から移動中、現地時間7月25日19時25分頃(日本時間26日0時25分頃)、モーリシャス南東沿岸のサンゴ礁帯に座礁。

(2) 当初油の流出はなく、船主(長鋪汽船)は離礁を試みるも、荒天により難航。その後、現地時間8月6日に船体に亀裂が発生し、搭載していた燃料等約4千トンのうち約1千トンが流出。

(3) 商船三井によれば、本船中に残っていた油(推定約3千トン)は現地時間8月12日までにほぼ全量を回収。24日、2つに割れた船体前方部分を海中に沈めて処分。



モーリシャス首相による緊急援助隊視察

2. 日本の支援

(1) モーリシャス政府からの支援要請を受け、日本政府は、10日、国際緊急援助隊・専門家チーム(6名)を派遣、現地当局等と協力し、油の流出状況の調査や油防除作業等に関する支援活動を行った。さらに専門家チームは、19日、モーリシャス沿岸警備隊に対する油防除に関する研修を実施。活動中、モーリシャス首相から日本の支援に感謝している旨発言があった。

(2) 日本政府は、環境分野の支援を強化すべく、19日に国際緊急援助隊・専門家チーム(二次隊)(7名)を派遣。海岸に漂着した油状物への対処、漂着地域の生態系への影響の把握などに向けた取組を実施中。また、モーリシャス政府より要請のあった油防除に関する資機材を提供。更に、9月2日本邦発の予定で国際緊急援助隊・専門家チーム(三次隊)(6名)を派遣することを決定。三次隊は、現地で環境分野の支援活動を行う予定。



マングローブの生育状況や油の付着状況を調査